



2022

人材育成支援プロジェクト



左：Youtube 右：サイネージ風景

実施者

＜実施メンバー＞千葉工業大学 創造工学部 デザイン科学科 大嶋研究室

千葉工業大学 創造工学部 デザイン科学科 3年, 飯塚 夏生, 伊藤 睦望, 榎本 乃愛, 加倉井 香織, 草間 朱音, 熊丸 健, 小林 篤史, 佐藤 賢斗, 佐藤 ひとは, 辻 太郎, 三村 亮太郎, 室伏 潤哉, 下川 愛里

＜協働パートナー＞

【行政関係】南房総市建設環境部 環境保全課

1. 背景・目的・活動内容

新型コロナウイルスの感染拡大による、環境学習参加校の減少などから参加人数が減少している現状であると南房総市役所環境保全課から相談があった。環境学習への興味を持ってもらうべく「環境学習の活動に関する広報物、新たな環境学習コンテンツを制作すること」を目的に活動を行った。

具体的な活動は、「環境学習の広報の一環」として、2022年に開催された環境ポスターコンテストの受賞作品を市民に紹介するサイネージで使用する動画コンテンツ(1月)とYouTube用の動画(2月)、市民環境学習会開催のチラシとポスター作成(2月)を行った。

また、環境学習のコンテンツ作成に関しては、小学生向けワークショップ形式のコンテンツ(浄化槽の役割と水質の浄化実験・ゴミを利用したアクセサリ制作WS・ペットボトルキャップを使用したドット絵制作WS)とそれらのコンテンツ自宅でも体験できるYouTube用動画配信の検討を行い、実施に向けた準備を行っている。

(1) サイネージ用動画コンテンツの制作

サイネージ用動画はYouTube動画と異なり、最初から視聴するとは限らない。したがって1~2分の動画のどの部分から視聴しても環境ポスターコンテストの受賞作品を紹介していることがわかるように配慮してある。飽きずに視聴されるように雰囲気の違い3タイプを用意した。①は、白を背景とし、明るい印象を持たせ、必要最低限の情報のみとした。また、短い時間(60秒)で受賞作品の内容を認識できるように賞ごとに作品をまとめて作品ごとの表示時間を確保した。②は南房総市のキャラクターみなたんを固定で配置し、美術館の絵画を鑑賞するように画面が移動しながら受賞作品を紹介していく。③は、受賞作品を下から上へスライドさせ映画のスタッフロールのように動かしている。また、背景は南房総市白浜地区の城山展望台からの風景を用いた。南房総市の環境ポスターコンクールと市の自然豊かさを伝えるイメージである。

(2) 環境学習コンテンツの検討

知識を得るだけでなく、それらに関するものを利用したモノづくりや実験などを行い、体験として記憶に残るかたちの小学生向けコンテンツを検討している。

一例として、水資源と浄化槽の大切さを伝えるコンテンツで行う実験として、ヤシガラ活性炭を使用している水浄化実験を検討している。現在は、オレンジジュースや牛乳など、実験で使用する水溶液の選択、ろ過型・吸着型で行うかなどの簡単にできる実験方法を模索中である。

2. 成果と課題

(1) 地域貢献面

サイネージで広報するときのコンテンツに必要な条件や画像ファイルを共有するための方法などの技術が蓄積できた。実際に使用されたサイネージの動画コンテンツやチラシ・ポスターなどは好評を得ていたが、定量的なデータとして評価されたものではない。今後は、制作したコンテンツの評価方法を検討したいと考える。

(2) 教育・研究面

コンテンツの検討・制作を通じて、学生個々の作品制作に関する意識の向上を図ることができた。また、実務に関わる担当者との打ち合わせやヒヤリング、学生同士での内容の相互評価など今後役に立つ貴重な経験が得られた。

3. 今後の展開

南房総市のイベント等に参加して、親子向け環境学習ワークショップを開催し、環境学習への興味と楽しさを、モノづくり、実験を通して伝えていく。・環境学習の動画コンテンツを充実させ、家庭でも環境学習を体験・実施できるようにし、環境学習を広く浸透させるための一助とする。



図5 (上)ろ過実験 (下)吸着実験 オレンジジュースと牛乳の一例

図6 市民環境学習会チラシ

図7 市民環境学習会ポスター

域学協働の工夫!

★南房総市役所 環境保全課：短期間で行わなければいけない内容に関しては、複数提案の中から選定し、その案をブラッシュアップすることで時間を短縮した。

*表彰・マスコミ掲載など

房日新聞 2023年1月26日掲載